

「君の椅子」：家具をとおした地域活動に加わっています

2015年7月、札幌市郊外にある「札幌芸術の森美術館」工芸館の展示室。柔らかい光に照らされた空間に、私たちの研究林の「冬の現場」の写真が展示されました（写真1,2）。



写真 1,2 伐採現場の展示（「君の椅子プロジェクト」提供）

展示会の名称は「君の椅子」10年展。まずは「君の椅子」からご紹介しましょう。

「君の居場所はここにある。」

君の椅子プロジェクトは、私たち北大研究林が所在する北海道北部の中心都市、旭川を中心に進められている、生まれたばかりの子どもたちに木製の小さな椅子を贈る取り組みです。

プロジェクト代表の磯田憲一さん（北海道文化財団理事長、旭川大学客員教授）によれば、この取り組みの発端は、「誕生する子どもを迎える喜びを地域の人々で分かち合いたい」という旭川大学のゼミでの会話だったそうです。その象徴である「椅子」には、「生まれてくれてありがとう。君の居場所はここにあるからね」というメッセージがこめられています。現在、旭川近郊を中心に6つの自治体（北海道東川町、剣淵町、愛別町、東神楽町、中川町、長野県売木村）がプロジェクトに参加し、町・村内でその年に誕生したすべての子どもに「君の椅子」が贈られています。

贈り物が「椅子」であることには、旭川が家具のまちであることにも関係しています。

「君の椅子」の制作過程は、なかなか凝ったものです。椅子のデザインは、国内外の第一線で活躍するクリエイターが暦年ごとに担当しています（つまり、これまで10種の異なるデザインの椅子が誕生したことになります）。そして、そのオリジナルデザインをもとに、旭川の家具工場の職人たちが実際の制作を請け負っているのです。世界に誇る旭川家具を内外に発信したい、地域に集積してきた木工技術を次世代に伝えたいという想いも、プロジェクトには込められているわけです。

研究林の参画 —研究林の木が椅子になる！

10年目を迎えたこの取り組みに私たち北大研究林が加わったのは、比較的最近のことです。きっかけは、参加自治体のひとつで、研究林の所在自治体でもある中川町の取り組みがありました。町は、近年、町産材のブランド化や流通システムの再構築、私たち北大研究林との連携（2012年の包括連携協定を締結）を通して「森林文化の再生」を積極的に進めています。この森づくりの理念が「君の椅子」と合致したのです。

「君の椅子」の側では、当初から、素材として道産無垢材の使用を希望したものの、木材

流通上、必ずしも産地特定ができてこなかった現状がありました。そこで「君の椅子」と中川町に、私たち北大研究林が加わる形で、「君の椅子」の制作素材＝広葉樹材を安定的に供給する3者協定を結びました。

最初の材提供は、地域を代表する広葉樹、ミズナラと決めました。そして、諸般の準備を経て、2013年の冬期、北大研究林と中川町有林において実際の伐採を行いました。わたしたちの中川研究林においては、人工林に接して生育していた樹齢約150年のミズナラ2本を技術職員・林業技能補佐員が伐採し、およそ5立方mの材を生産しました。

ときが過ぎ、2015年春、この木は小さな椅子となって帰ってきました。建築家の中村好文さんがデザインし、地元の大門和真さん（アートクラフト・バウ工房）と桑原義彦さん（（株）匠工芸）が制作を担当した「四角っぼい」すてきな子ども椅子です（写真3）。もう、いま頃は、子どもたちにあたたかな「居場所」を提供しているはずです。



写真3 完成した2015年の「君の椅子」（「君の椅子プロジェクト」提供）。椅子には、一脚ずつ通し番号、名前・生年月日が刻印されて「世界でただひとつ」の椅子になります

研究林にとって

協定締結の際、3者で共有した「想い」があります。それは、単に材を提供することだけではなく、このとりくみを地域の中の「つながり」を再生する契機にしようということです。私たちは、これまで「君の椅子」プロジェクトが育んできた、家族－コミュニティー－地域産業がつくる連環に、もうひとつの輪、北海道の自然－森林ではたらく人々－地域の再生を模索する人々をリンクさせたいと考えました。

冒頭で紹介した美術館での展示は、その具体的な発信のひとつとして企画していただきました。椅子として完成した「もの」の背後に、地域で地みちに活躍する多くの人びと、そして地域の自然そのものが関係していることを伝えます。今年度からは椅子を贈る際に、使用した木の履歴（木のプロフィール）も付されました。将来、子どもたちが「椅子の背後」に想いを馳せるときが来ることを期待しています。

森林ではたらく側にとっても、使い手（子ども）が分かる生産に携わることは大きな喜びです。地域の木材には他では決して代替できない価値があること。それを地域の中で心を込めて使うこと。これら2点を実践するこのプロジェクトは、「木を伐ることの意義」を再考する教育素材としても、大きな価値を持っていると感じています。

君の椅子プロジェクトのHP：

https://www.asahikawa-u.ac.jp/page/kiminoisu_project_about.html